

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2274201702		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホームあいの街東新田		
所在地	静岡県静岡市駿河区東新田4丁目16-2		
自己評価作成日	平成31年2月12日	評価結果市町村受理日	平成31年3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者一人ひとりの状況把握をし、その人らしく・その人にあった支援をし、第二の家庭のように風通しのよい施設づくりをしている。認知症の状態であっても、家庭的な雰囲気の中で共同生活を通し個々の「思い」の実現を支援して行きたい。また毎月の行事は季節感のある物を計画し、五感で楽しめるようにしている。職員一人ひとりが、利用者様と大家族の中で生活を共にしている事を意識・認識し穏やかで温もりがあり最後までゆったりと過ごして頂ける様、一人ひとりに寄り添う支援をしています。家族様や地域の方々などの協力を頂き、今後も安心して自分らしい生活が出来るように本人や家族からの情報をもとに、様々な活動が出来るように取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

本年度法改正に伴うマニュアル、指針を備え、委員会会議も年4回でよいところを毎月実施しています。3要件に該当する利用者には家族の同意書、経過記録、協議内容もあり、鈴等グレーンゾーンの部分にも丁寧に取り組んでいます。「身体拘束はなぜいけないのか」との仕様書を本年事業所独自で作成し、職員用と管理者用の「事故点検シート(チェックリスト)」も開始のうへ、自己点検シートは解説も用意していることから新人職員への配慮も考えます。「身体拘束ゼロ宣言6の基準チェックリスト」「身体拘束廃止の為に成すべきこと五つの方針チェックリスト」も今後運用の予定で、身体拘束廃止未実施減算に係る事柄を盤石としています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼(申し送り)の前に、施設「理念」「社提」を唱和し常に念頭に置き、その日の業務に就くようにしている。	理念は掲示のうえ朝礼でも唱和しており、理念を基盤とした個人目標もマネジメントサイクルにのせ、振り返りは運営推進会議でも報告しています。また個人目標と本人の顔写真はセットで玄関に貼り出し、家族にもアピールしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民とのつながりを大切にしている。地域清掃・幼稚園・小学校・中学校・自治会との交流を始め、町内会に加入し地域の行事に参加している。防災訓練など地域の方々も参加下さり、地域の一員として交流している。	地域清掃でも貢献の他、今年度の防災訓練で起震車を招いたときは地域にポスティングして、事業所関係者を含め50名余で賑わうミニイベントとして昇華しています。また事業所の「感謝祭」は農業高校や地元の皆さんの協力も大きく、150名余が集まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、地域の皆様と交流する事で、認知症への理解を深めて頂き又、運営推進会議を開催して地域の方々の意見を聞き、理解をして頂けるように努力をしている。会議には住民代表・自治会長・民生委員・包括など参加がある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、ホームでの出来事や報告などを伝えると共に、家族様からの要望・意見を集約し、サービスの向上に取り組んでいる。また地域に根差した明るく開放的な施設を目指している。	偶数月の第四月曜日と定め、併設事業所と合同での隔月実施が叶っています。「シルバーサポートを使ったらどうか」といった助言や外出支援に係る地域資源の紹介などが豊富で、メンバーが誠意をもって参画くださっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が来訪され、直に入居者様と話され普段聞けない本音の意見が汲み取られる為、双方で情報共有し、より良い生活の反映に努めている。	事業所では集団指導にも出向き、介護相談員も訪れています。また感謝祭は「爆音戦隊スンプレンジャーやアブラハム(子ども)」も招き、長田連絡協議会の仲間4事業所が利用者同伴で来所下さり、ヨコの連携に努めていることも覗えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の安全を考え、入口は施錠しているが時間を決め日々の業務の中では身体拘束ゼロを常に念頭に置き迅速に代替策を講じ対応している。月一回の会議時、身体拘束廃止委員会を開催し話し合っている。身体拘束廃止委員会については会議で学ぶ機会を持ち職員全員が理解し「寄り添い」日常的に身体拘束ゼロに取り組んでいる。	本年度法改正に伴うマニュアル、指針は内容不足なく整っています。委員会運営は6月から始め毎月実施していて、議事録には出席できなかった職員の確認印もあります。3要件に該当する利用者には家族の同意書と経過記録、協議内容も丁寧に取組んでいることを書面確認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、虐待についても定期的に行っています。高齢者虐待についても意識を高め、虐待や不適切なケアが見過ごされない様、職員がお互い注意を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護・後見制度を必要とする。現利用者様はいないが、学ぶ機会を持ち今後に備え理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所内を見学して頂いた上で、ケアに対する方針や重度化について説明を行っている。利用者様・家族様の不安な思いを伺い理解・納得が得られる様に話し合っている。また家族様からの質問にも丁寧に答えながら、信頼関係の構築に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会・月一回のお便り(写真入り)などで利用者様の様子をお伝えし、要望や意見をその都度聞くようにしている。また意見等は職員間で共有をし運営に反映させるよう努めている。	家族会、敬老会、クリスマス会には、「この日なら行けるのだけど…」と参加意欲満載のリクエストが家族から挙がり、埼玉、東京、横浜在住の家族も駆けつけてくださり、ほぼ100%の出席率で、堅固な結びつきがあることが伝わります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや研修時に職員の提案や意見を聞く機会を設けている。また毎月のレク担当を決めており、季節に合ったレクを提供するようにしている。個人面談で意見を聞く事もある。	開設からの勤務者を筆頭に長く働く人が多いものの、管理者が話を振らないと発言しない職員もおり、利用者以外のことは総じて意見は挙がりません。その為「声を出さずに会議が終わった」ということにならないよう、管理者が工夫しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し勤務時間の調整など就業環境の整備に努めている。また会議を通じ更に①報告②連絡③相談の徹底を図り職員間の意思疎通を図り安心できる介護サービスの向上を目指す。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議時 施設研修を開催している。研修をする事で個々の意識向上・意欲を出す様にしている。職員全体で内容を共有し全体のケアの質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長田連絡協議会に加入しており、研修や交流には積極的に参加し日常のケアや運営に活かしサービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴を理解し、面談時にご本人・家族様から詳しく話を聞き、アセスメントをしっかりと、職員全員が情報を共有し、その人らしい生活が出来る様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入する際、家族様が困っている事や不安な事・要望など些細な事も聞き逃さない様にし、良い関係が築けるように努めている。事業所としても対応の仕方を検討し、家族様に安心して頂けるように良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、職員全員で課題分析をしている。ニーズを見極め、適切なケアが出来る様に努めている。また本人様と家族様の要望を検討しその人らしい生活が送れるように、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の尊厳を守りながらも親しみやすい環境を作り信頼関係を作るように努めている。生活の中で洗濯たたみや、お盆拭きなど一緒に家事を行ったり仕事を頼むことで本人の役割を感じて頂き、共に生活し、支え合うもの同士の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には月に一度のお便り・又来訪時には施設での生活状況や問題点など報告・相談し共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様だけでなく、親戚・昔からの知り合いの訪問もあり、馴染みの関係が途切れない様にしている。外出時に馴染の場所に立ち寄ったり、友人の来訪時には、昔の話に耳を傾ける様に心がけている。	囲碁や将棋のテレビ番組欄を職員と確認し合って継続視聴する人の相手を探してはいますが、現状いないため、雑誌や新聞に掲載の詰将棋を介して話材を投げかけたり、写経を続ける利用者には職員が筆探しを手伝っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、必要時に職員がさりげなく声をかけ橋渡しをしている。認知症の進行に伴い交流が困難でも他者とトラブルにならない様注視している。相性を考慮し席を変更する事もあり、生活のプラスになるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業者に移行になっても、当事業所の生の様子などを情報提供し、これまでの生活を継続できるよう支援に努めている。また退去された方へのお見舞いや面会も心掛け家族様からの報告や連絡を頂く事がある。使わない服や野菜など頂く事もあり、大変ありがたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、何気ない会話や表情、行動から利用者の思いをくみ取り、かなえられる様に検討し、支援につなげている。意思疎通の困難な方でも、顔の表情を見逃さない様に心がけています。	本人の意向を探るのは難しく、逆に「これができたら身体にいいな」といったことを利用者にアプローチしています。当初は「こんなもん」といった言動でも少しずつやることで出来るようになり、時間を重ねて愛着がでて習慣となる事もあります。	「葉類は食べない」「惣菜に好みがある」といった把握はあるものの、実際の食卓は一樣に同じものが並んでいましたので、小さくとも食事に個々の要望に応じた変化が今後はあることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを職員個々が周知出来ており、職員同士の情報の共有により把握に努めています。また家族様との会話、本人とのやり取りから少しでも情報が収集できるようにし、これまでの暮らし方や生活の様子好き嫌いなどを聞きその人らしい生活を継続できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムを把握し、安心して生活が出来る様に支援している。また健康状態には常に注意を払い個々の行動・体調などの把握に努め、職員全員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで現状確認を行い現状に即した介護計画書を作るよう努めています。また心身状態に変化があった時には、直ちに変更し柔軟に対応している。	平均介護度4ということもあって、「無理をせず、健康で穏やかな生活ができる」「職員と仲良く、また他の利用者に過剰に浸食されず相互の関係を温和に保つ」といったことに配慮し介護計画書が作成されています。	現場と介護計画書がやや離れている印象があるため、サービス内容が凝縮された一覧等があると、なお良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録する事の大切さを職員に伝えている。利用者管理票にて体温・血圧・排便・水分・食事摂取量など記録し経過観察を行い、体調の変化が解りやすくなっている。また申し送りノートを活用しミーティングでのケアカンファレンスなどにより職員の気づきの共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・家族さまとも会話をする事を大事にし、本人の希望や家族様の意向を確認しその時々支援が受けられる様に取り組んでいる。ニーズに応じる事が出来る様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職場体験や保育園児の慰問・自治会との交流などを行い、地域の人々との繋がりを大切にしている。またボランティアの受け入れも積極的に行っている。美容院も近隣で訪問理美容を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される医療機関をかかりつけ医としている。希望が無い場合は協力医療機関の一月一度の定期往診をしている。看取りについては24時間の訪問医療に変更し常に医療機関と家族様と連携をとるようにしている。	従来のかかりつけ医を家族の付き添いで続ける利用者が1名おり、記録は口頭で家族から聞き取っています。他は事業所の協力医の定期訪問診療を受け、かかりつけ医の内容とともに「往診記録」にて情報共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理について職員と看護師の連携に努め、看護師が必要な指示・助言を行っている。些細な変化も見逃さない様、日々の情報を職員と看護師が共有し適切な医療が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や医療機関と連携し、治療等の情報を共有している。定期的に病院に伺い、回復状態に合わせ退院後の生活がスムーズに送られるように努め、家族様とも連携をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針について、入居時に家族様に意向を確認している。重度化した場合、本人の状況を踏まえ再度意向を確認し、24時間医療に医療機関を変更し、終末期を迎えられる様 医師や看護師と連携し合い職員全員で支援に取り組んでいる。	此処2年で3名の看取りをおこなっています。職員は経験を積む一方で、メンタル面が心配されるケースもありますが、週1回勤務の看護師が突発的なことにも対応して出勤を増やす柔軟性の高さがあり、事業所では大変助けられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、学ぶ機会を設け緊急時にも適切な対応が出来る様になっている。また研修などで救命救急の講習を受けている。職員間でも緊急連絡網があり、いつでも連絡がとれるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を実施している。スモークハウスや地震体験車など地域の方々の参加もありました。避難方法や搬送方法・消火器の使い方などの体験をしている。	消防車付で消防署職員が指導くださる法定訓練を年2回実施できています。「火が出て4分くらいしかありませんよ」との指導を受けて時間計測を伴う避難訓練や、スモークハウス、起震車等多様なメニューで取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格・プライバシーを尊重し、声掛け・介助の仕方など利用者様の尊厳を大切に、年長者として敬意を払った言葉遣いを徹底している。風呂やトイレ・居室への入室はノックを施行している。	トイレの中のパットの表示はイニシャル化しており、同性介助の要望にも応え、身体拘束廃止に係るチェックリストを通じて自身を振り返る機会もあり、概ね礼節ある対応ができていると管理者は受けとめています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今何をしたいのかを聞きながら、ご本人が自己決定出来る様にしている。選択出来る所は選択して頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、なるべく利用者様のペース・意向を優先するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃り・女性は整髪・二か月に一度の訪問理美容を支援している。男女とも爪切り等の介助をしている。女性の方では乳液・化粧水を使用している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事は業者が入り専任職員が調理をしている。季節や行事に合わせたメニューを提供し食事が生活の楽しみとなるように支援している。また利用者の状態に合わせて形態を変えたり、出来る限り経口摂取が継続できるように支援している。出来る範囲でお盆拭きを手伝って頂いている。	湯煎するだけのものが業者から届いていますが、冷凍野菜は筋張り歯ごたえが微妙となるため、職員ができる限り更に手を加えています。また医師に「塩分が足りない」と指導を受けると梅干しを足すなど、健康管理にも留意しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量は記録に残し、必要な栄養・水分の確保が出来る様に支援している。食事摂取量が少ない利用者様には医療と相談し、エンシュアキッドを飲用し、栄養を確保している。また嚥下の弱い方はペースト食にての提供をし、お粥対応の方もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力や状態に応じて声掛け・見守り対応をし必要に応じて介助している。口腔内のチェックを施行し仕上げをさせて頂く利用者様もいる。訪問歯科にて口腔内チェック・治療をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るように、利用者一人ひとりに、タイミングを見て声掛けをしている。出来るだけリハビリパンツでなく、綿のパンツを使用し、パットで対応できるように支援している。	排泄チェック表をつけリズムを掴むも、本人の状態によるケースバイケースとしつつ、「座ればできる」として、なるべく座面に座ってもらうことを優先しています。布パンツに向上した例は過去にはありますが、今はありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄状況を把握し十分な水分摂取、生活の中での運動を心がけている。必要に応じて医師に相談し薬でコントロールしたり、食物繊維のあるさつまいもや乳製品で便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日や清拭日を決めているが、本人の体調や希望に合わせて支援している。入浴の出来ない方にはシャワー浴にて対応している。季節には柚子湯なども対応し、沐浴剤を使用し色や香りを堪能出来るように工夫をしている。	週2回の入浴プラス清拭が1回を基本形として、水虫を持っている人もいるためお湯は毎回入れ替えて、清潔な入浴に努めています。入浴剤もラベンダー、柚子、森林など順次気分を替えて使用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンを把握し、状態や状況に合わせていつでも休息がとれるように支援している。日中は日光浴をしたり、適度な運動で夜間安眠できるように支援している。室温・湿度にも配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬中の薬の説明ファイルを用意しており、職員全員が理解できるようにしている。服薬時は利用者様と共に確認し誤薬の無いように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や職歴などの情報収集をし、やりがいや喜びを感じて頂けるレクやドライブなどで気分転換が図れるように支援している。また屋外散策や歩行訓練で季節を肌で味わえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	花見などの季節行事や外食などに出かけている。天気が良い日は施設周辺に散歩に出かけたりしている。利用者の重度化により外出が困難になっているが、季節を感じたり外気にふれる事を重視し、日光浴や洗濯を外に干しに行くなど外に出る機会を増やしていく支援をしている。	ゴミだしのとき誘ったりする自然な形の散歩はありますが、週何回とか午前はおこなうといったルールは設けていません。運営推進会議では家族から「また行きたいね～」と意見も挙がっていて「温かくなったら富士川楽座あたりまで」を検討中です。	重度化に伴い外出企画が減ってきているため、コンビニエンスストアや100円均一、スーパーマーケットなどのミニドライブが実施されていくことを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭所持はトラブルの原因になる為、基本認めていない。物品購入時は施設立替えで対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでも電話が出来るように支援している。また電話の取次ぎも可能であり、手紙など出来る事を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にソファを置き、いつでもくつろげるようにしている。また季節に合わせた壁画を用意し利用者様の作品や写真などを掲示している。時には昔懐かしDVDを流し、美空ひばりなどの歌をうたい楽しませている。	事業所の運営に係る内容は1箇所にとまどめて貼り出している等判りやすく、見やすい掲示が目目を惹きます。また配置職員以外の掃除専任者もあり、職員には「ここは気がつかないところだね」と一つひとつ示して前回の外部評価の時よりも清掃状況が改善しています。	洗濯機の裏側奥や脱衣スペースなど普段目にしない箇所も清掃箇所に加わるよう、何らかの工夫があることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が、気兼ねせずリラックスした雰囲気の中でいつでも雑談が出来る様空間づくりをしている。テレビやソファもあり思い思いに過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染のある小物やタンス・位牌など愛着のある物を持ち込んで頂き、居心地良く安心して生活出来るようにしている。また本人愛用の湯呑茶碗を使用している方もいる。	小ぶりのクローゼットが備わっているため、やはり小さ目のチェストを置いている居室が大半で、こじんまりとした印象です。肌の保湿を気にする利用者の部屋には乳液と小さな三面鏡が置かれていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合った身近で出来る事を探し、声掛け・見守りをしながら行えるようにしている。洗濯干しや洗濯たみなど家事は出来る人に積極的にやって頂くように声掛けをしている。		